

令和2年9月1日

加古川市長 岡田 康裕 様

地方独立行政法人加古川市民病院機構評価委員会
委員長 森脇 正

答 申 書

令和2年8月11日付で諮問のあった地方独立行政法人加古川市民病院機構の第2期中期目標の期間の終了時に見込まれる業務実績の評価に関する事項及び第2期中期目標の期間の終了時の検討に関する事項について、当委員会において慎重に審議を重ねた結果、下記のとおり答申します。

記

1 第2期中期目標の期間の終了時に見込まれる業務実績の評価に関する事項

別添「第2期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績に関する項目別評価」のとおりとする。

なお、業務実績に関する評価に当たっては、当委員会の答申を踏まえ、適切に実施されるよう要望する。

2 第2期中期目標の期間の終了時の検討に関する事項

平成23年4月1日に地方独立行政法人化し、平成28年7月に加古川中央市民病院を開院して以来、地方独立行政法人制度の特徴である自律性・機動性・透明性を最大限生かし、業務運営の改善などに積極的に取り組むことで、経営基盤を確立させ、安全で質の高い高度専門医療を提供ができており、地域の中核病院としての役割を果たしている。また、第2期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績においても、中期目標を十分に上回るものであると判断している。

以上のことから、法人の業務の継続又は組織の必要性その他その業務及び組織の全般にわたる検討については、現状特段の問題はなく、地方独立行政法人の形態で継続させることが適当と判断する。

なお、次期中期目標の策定にあたっては、評価委員会からの意見や課題等の整理、また、新型コロナウイルス感染症に対応した経験を生かした病院運営への取組など、地域の中核病院としての役割と経営基盤の安定を更に推進し、地域で安心して暮らせる質の高い医療提供体制の充実を目指していただきたい。

以 上